information

富士市民活動センター　コミュニティｆ
コミュニティｆは富士市内の市民活動を応援するための施設です。

ミーティングルーム

団体登録 要　事前予約 要

継続はカなり 節電対策☆ 空気循環のため、パーテーションは最小限

常時は１ブース12名の配置ですが、人数や会議スタイルによって50名ほどまで対応できます。

特別会議室

団体登録 要　事前予約 要

継続はカなり 節電対策☆ こまめにON/OFF

定員12名の完全個室の会議室です。経営的な会議や、相談業務などにご利用下さい。

フリースペース

団体登録 不要　事前予約 不要

継続はカなり 節電対策☆ パソコン利用のたびにON/OFF

ネット閲覧PC3台常設。自動販売機もありますので、ちょっとした打合せや休憩にご利用下さい。

印刷サービス

オルフィス

片面・両面印刷対応。資料作成などにご利用下さい。

超厚手マットも新登場!!

（※注）印刷は合計10枚以上からのご利用となります

	普通紙	厚手マット紙	両面加算
白黒 A4	3円	6円	2円
白黒 A3	4円	9円	2円
カラー A4	11円	14円	10円
カラー A3	12円	17円	10円

断裁機、折り機、丁合機も揃っています

大判印刷

A1判・A2判・横断幕の印刷も可能です。
- A1判…800円
- A2判…400円
- 横断幕（1mあたり）…1000円

裁断機

最大断裁厚約200枚、断裁奥行：310mm（A4長辺）まで裁断可能です。

無料

折り機

ご希望の折り方に折る機械です。用紙サイズにより不可ありです。

無料

丁合機

複数の印刷物を頁順に並べ揃える機械です。

無料

■ イベント・団体PRなどのチラシ同封サービス

本誌「コミュｆニュース」は偶数月の１５日に富士市や静岡県下の約300箇所の団体・公共機関に郵送しております。本誌発送時にイベント情報などのチラシを同封いたします。詳しくはセンターまでお問合せ下さい。

■ こんなことといいな、できたらいいな。

コミュニティｆでは、ご要望を随時受け付けております。集客に関してや、イベント企画に関するご相談、チラシ印刷に関するお悩み、仲間集めのやり方などちいさなことでもいいのでご相談ください。また、他団体との情報を共有していけるプラットフォームのような場所になっていきたいと思います。

■ その他のサービス

メールボックス、ロッカー、インターネット利用は無料でご利用いただけます。

その他 NPO設立相談、イベント支援、プレスリリースなど の相談を承ります

コミュニティｆ
富士市民活動センター

※3月4日日曜日は臨時休館です

E-mail　info@com-f.net
H P　http://www.com-f.net
開館時間　月曜ー土曜10:00〜22:00
日曜・祝日10:00〜17:00
富士市吉原2-10-20　ラクロス吉原2階
TEL 0545-57-1221 FAX 0545-57-1091

Facebookはじめました。
いいね！をおしてください。 http://www.facebook.com/comf.jp
みなさまと情報交換の新しいツールとして利用していきたいと思います。

編集後記

ここ数カ月間、コミュｆではイベントが目白押しで慌ただしい毎日です。2月18日には『facebook完全活用術!!』が開催。また、2月24日からは『フジパク富士山博覧会　シーズン2』が始まります。今回は、親子で参加できる『kid'sフジパク』というプログラムもご用意していますので、ぜひ親子で楽しんでくださいね。

富士市民活動センター・コミュニティｆは、ＮＰＯ法人東海道・吉原宿が指定管理者として運営を行っています

市民活動を応援するセンターの情報誌

編集・発行

コミュニティｆ
富士市民活動センター

コミュｆニュース

2012.02.15発行
第21号

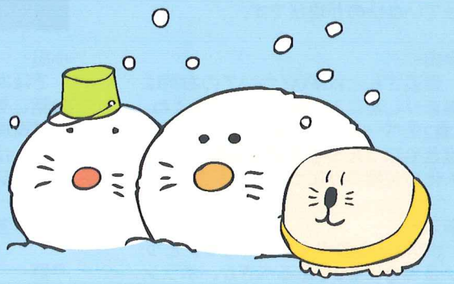
富士市民活動センター
コミュニティｆ
富士市吉原 2−10−20
TEL 0545-57-1221
FAX 0545-57-1091
ホームページ
http://www.com-f.net

特集

－富士市民活動センター来館者１０万人達成危険講演会－

comf x f-biz コラボ企画
「富士山麓NPOサミット」
～日本のＮＰＯの未来は富士山にあり～

イベントめじろおし



ホームページ　http://com-f.net/
ブログ　http://blog.canpan.info/com-f/
フェイスブック　http://www.facebook.com/com.jp
コミュニティｆ　検索

コラム　そこが知りたい！コラム
津波非難ビルとは？

なかま
富士市ＮＰＯ協議会
会長　荻野　幸太郎

イベントレポート
ＪＫＡ富士市オリジナルキャラクターを探せ！

アンケート
情報発信に関するアンケートをお願いします。

イベントレポート
プレスリリース講座
1月18日（水）19時～開催しました

休館日
3/4（日）
※館内清掃の為、休館いたします。

この冊子はコミュニティｆの印刷機オルフィスで印刷されてます。

富士市民活動センター・コミュニティf
来館者１０万人達成記念講演会

富士山麓ＮＰＯサミット
～日本のＮＰＯの未来は富士山にあり～

comf
×f-Biz

去る1月31日に富士市民活動センターにて、コミュニティｆ主催、来館者10万人達成記念講演会「富士山麓NPOサミット～日本のNPOの未来は富士山にあり～」が開催されました。

パネリストにはB級グルメで全国にその名を広めたNPO法人まちづくりトップランナーふじのみや本舗理事で「富士宮やきそば学会」から渡辺英彦会長、静岡を代表する富士山などの自然を体験活動に取り組むNPO法人ホールアース研究所から平野達也氏、そして地元に生まれ育ち、吉原のまちづくりに取り組むNPO法人東海道・吉原宿代表の佐野荘一氏の3名。

富士・富士宮エリアで「食」「自然」「商店街」と、それぞれ違った角度でNPO活動を展開する中で、これまでの経緯と現状、また今後成長し続けるヒントについて熱い討論が繰り広げられました。

コーディネーターは富士市に新たなビジネスを発掘し、支援を続けるf-Bizの小出宗昭氏。

果たしてどんな討論会となったのか？緊急レポートです。

小出-
富士・富士宮には全国的にみてもすばらしく有名なNPO活動をしている団体が多くあり、富士宮焼きそばをはじめ吉原宿、ホールアースと、この３氏の活動は成功モデルとなっています。まずは佐野さんから東海道・吉原宿の紹介を。

佐野-
吉商本舗やフジパク、コミュニティｆの指定管理、コミュニティカフェの経営、街コンや音楽イベントなど、色いろなイベントを8年がかりでやってきていますが、まだまだ活性化には至っていないのが現状です。

小出-
渡辺さんとはNPOについてのお話はあまりしたことがなかったですよね。「食」をベースにしたまちおこしの発火点ともなったやきそば学会の、NPO法人化の位置づけについて少しお話を。

渡辺-
NPOは一つのツールなんです。どういう場合にNPOであるべきか、ボランティア団体でいいのか、それはケースバイケースなんです。最初は勝手に始めたことがある程度効果を出してくるとブランド化してくる。ブランド価値を帯びてくると商用ベースになり、ビジネス展開となる。行政との間では法人格を持った上で契約などが生まれ、といったように活動を持続する為の方法がNPOだったんです。次々に進化していったということです。焼きそばだけをやっているわけではなく、活動は多岐に渡っているので、それぞれ必要に応じて組織システムを作り継続しているんです。

小出-
つまりは持続させる為に最適な最良な方法を選ぶということですよね。

渡辺-
我々の目的は「食」を地域ブランド化させて地域活性化に繋げるということですから、それにあうような形で体制は柔軟にあるべきだと思います。

小出-
では次にホールアースの平野さんにお話しをお聞きしますが、全国各地で自然環境の活動をしている団体の中でもホールアースがモデルとして出るくらいにフロントランナーにあるのですが、ホールアースがNPOに至った経緯などをお話ください。

平野-
最初は「動物農場」という名前でポニーや羊、ロバを飼いながら動物とふれあえる場所として始めました。今ホールアースはいくつかの法人格を持っています。「自然学校」という場合もあったり、「株式会社ホールアース」、「ホールアース農場」という農業生産法人や旅行業の法人格も持っています。自分たちが活動していく中で必要な法人格をその都度収得していきました。何も無いような中山間地域でたくさんの知恵を持ったお年寄り、たくさんの自然、そんな中で自然を活用した体験プログラムが出来ないかといった社会的ニーズが繋がってきたんです。それに対応していく中で自治体からの仕事には法人格が問われ、「ホールアース研究所」というNPO法人をとって契約してきたというわけです。

小出-
ホールアースのスタッフの皆さんには何がしたいかという理念がシンプルに明確になっている気がしますが、形態にこだわらず、気にせずやっているということでしょうか？

平野-
現在スタッフは40人。平均年齢が30代前半で、社会の中にいろんなことをしたいというものばかりです。基本的にホールアースはブレーキをかけないのでやりたいことをやるように推奨していますから、幅がどんどん広くなってしまうと、そんなに色んなことを認めてくれる一つの法人格はないので、それだったら旅行業にひっかかるなら社会的に認められる旅行業を取りましょうとか、農地で農業をやるんだったら農業生産法人を取りましょう、という感じでどんどん増やしていったということです。

小出-
まずは自分たちがやりたいことがあって、その中で一番最適な最良の形態を選んでいったという、まさしく渡辺さんの取り組みと一緒ということになりますね。

佐野さんは生粋の吉原っ子ですよね。何かきっかけがあって、だからこそ突進していったと思うのですが。

佐野-
今吉原だけでなく、日本中の商店街がさびれています。組合の中で色々な事をやってはみましたが、商店街の事を商店街の人だけが考えている状況で、でもまちのことを考えてくれる人って意外とよそにもいて、ひょっとしたら器を作ったら何かしら商店街以外の周辺にいる人を引きずり込めるのではないかと思いました。昔から吉原には法人格を持つ人が多く、何か事業を立ち上げるには法人格を持つのが当たり前だと思っていたので、良く分からずに入った世界ではありましたが、先に説明したように事業が拡大していくにつれそれに見合っている法人格を取って分社化して行く、吉原宿もその段階に来ているのではないかなと思っています。

小出-
皆さんの意見から見えてくるのは、組織形態にこだわってやりたいことにセーブして限界を感ずる中で、自分たちがやりたいんだ!と柔軟に組織形態を選択し、新たにし、持続的に流れを作り出していることだと思います。まちおこしの活動をフロントランナーでやりきることについての意識がどのあたりにあるのでしょうか？

渡辺-
ノーリスクで勝手に無責任で始めたことが、無責任にできなくなってくると、組織にしてしっかりしけきゃいけないということでところどころシフトしているんです。ですから誰かが強引に続けて引きずっていける立場の人間がいないと続かないと思います。

小出-
いつもすごく感心しているのですが、渡辺さんは次への戦略を練って計算されているように見えます。

渡辺-
地域づくりもマーケティングなので、そこをきちんと組み立てていかないと上手くいきません。ビジネスの世界では当たり前の発想が、まちづくり・地域おこしとなるとそこの部分が抜けてしまって、せっかくいいものを作ってもしっかりプロモーションしないと物は売れません。真面目にやってればいいということではありません。
「うちは真面目な人間ばかりでギャグを飛ばすようなことができないんですよ」という人がいますがそれは違います。それは真面目ではなくて『サボっている』だけです。いかに消費者にいいものを伝えるには、ふざけていようが伝えることが大事なので、発信しなきゃいけないんです。ビジネスでは当たり前の世界のことが、まちづくりやまちおこしの人はやっていないんです。まちづくりこそ一般市民がその部分を担わないと。

小出-
皆が求めていた良いことでも、知ってもらわなければ全然うまくいきませんね。
ホールアースさんには元教師、元外資系、元消防士など、バリバリに働いていた人が目覚めてホールアースにやって来る。情熱的で極めて優秀なスタッフが、ひとつの方向性を発していくのは大変なのではないでしょうか？

平野-
ホールアースではスタッフの持っているエネルギーの動きを止めないことに気をつけています。現場にいた人が限界を感じて振り切った振り子を、ホールアースで反対に振り切って貰いたいと思っています。活動しているうちにはいろんな気持ちが芽生えてくるので、現在「多様な働き方」というと仕組み作りに力を入れ始めました。その結果、移職率がぐんと減り10年戦士が増えてきました。
NPOに務めながら家族を養って暮らしていくのにはまだまだ不安も感じるしリスクもあります。半分ホールアースに属しながら半分大学院生をするなど選択し、別の世界で爆発させて安心してまた新しい思いで活動に取り組んでもらうことが狙いです。

小出-
ホールアースにはパワーがあって魅力があって、この地域における財産だと思います。佐野さんの吉原宿も、フレキシブルでかつスピーディで、次から次へチャレンジする活動に驚異的な取り組みのスタンスを感じますが。

佐野-
吉原宿の活動に、私は実は何も言っていないんです。やりたい子がいたらその子がリーダー。苦手な部分は誰かがフォローすればいい体制にしています。私は吉原で4代目ですが、その時代時代で誰かに必ずお世話になっているはずです。世話を焼く人がいなくなっている今、その役目が自分なんだと思っています。

小出-
本当に若い人が育ちましたよね。その経験が成長を促している、これこそが佐野さん達のセールスポイントではないでしょうか。
ではこの富士・富士宮エリアの可能性についてどう感じていますか。

渡辺-
今までの日本の社会は物作りを極めることが一つの流れでした。いいクオリティで安心安全で作ることが第一。でも今までのやり方じゃ物は売れない、活性化しない。一般消費者・一般市民が動きだすことによって、自分たちが物を作っていなくてもブランド化することが出来る。それによって地域の価値を高めることが出来るんだという価値観の転換がこのところ起きて新しい試みが生まれています。その可能性を意識しなければだめだと思います。
富士山には吸引力があります。このエリア全体をみんなで盛り上がっていこうというのは、当然な方向だと思います。

小出-
富士・富士宮は静岡に比べて地元のネットワークが意外と強く、共鳴するエリアだと思いました。

佐野-
一度県外で暮らした時期ありますが、富士山をどうこうしようということが論外ということがわかりましたね。

小出-
では最後に地域の皆さんへ一言。

渡辺-
私は何かすごそうだな！と思わせるように全国でほらを吹きまくっています。焼きそばを食べたい、富士宮へ行ってみたいと思わせるのが私の役目。

平野-
地元で活動してくれる地元スタッフをぜひ紹介していただきたいです。

佐野-
私も「行ったことないけど吉原ってすごいとこらしいぜ！」というイメージをよそに作り上げてます。おもしろおかしくやっていれば結果的に地域活性化につながると思っています。

―― 皆さんありがとうございました。今後も更なる活躍を期待しています。

左から
佐野荘一氏、平野達也氏、渡辺英彦氏、小出宗昭氏。

＊敬称は全て省略させていただきました。

EVENT REPORT イベントレポート
効果的なプレスリリースの手法

主催:富士市民活動センター　コミュニティｆ

先日、コミュニティｆにて、市民活動のＰＲ方法やより社会的信用度を上げる手法を学ぶ『効果的なプレスリリース講座』が開催されました。テレビやラジオ局の記者たちが講師となり、ＮＰＯや市民活動団体の約30人が参加し講義に耳を傾けました。

司会進行は岳陽新聞の元記者でファンドレイザーの木内満さんをはじめ、静岡新聞社の市川淳一朗記者、ＳＢＳ富士市局の岡部聡記者、富士ニュース社の宮下直之記者、そして富士コミュニティＦＭ放送の酒谷良明編成部長らがパネリストを務めていただきました。

５Ｗ１Ｈが必須

記事にする必須条件は、日時・場所・何をやるのか・主旨・主催の連絡先の「５Ｗ１Ｈ」とのこと。

岡部記者は、例えばイチゴの収穫時期に合わせて、その一部を市長・県知事や園児に贈呈するという話題の場合、はたしてどちらを取り上げたならニュースになるのか。それを選択する基準はどちらが絵になるかーということを考えているとお話してくださいました。

また、自身で作成した資料を基にニュースの話題集めから放送するまでのタイムスケジュールを紹介しました。

情報に付加価値を

市川記者によると、情報に付加価値をつけると話題になりやすいと言います。全国規模で同じイベントを行う場合、なぜ富士市でも実施するのか等、何かしらのキーワードを入れるとニュースになりやすいと解説しました。また、発信する側も世の中に関心を持つことが大事とお話していただきました。

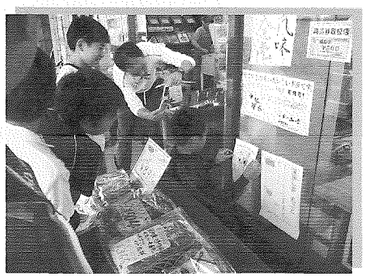
『メディア・リテラシー』の重要性

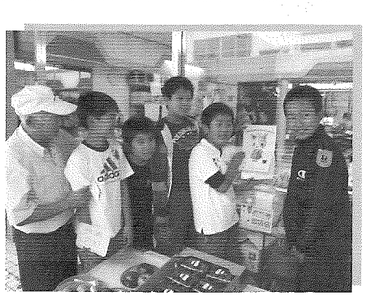
酒谷部長は、全県を対象にするなら箇条書きにして一度原稿にしてみると何を強調したいのかが見えてくると言います。メディアの特性や利用方法をよく理解し、情報を見極めて適切な手段で自分の考えを伝える『メディア・リテラシー』が重要とお話していただきました。

JKA
富士のオリジナルキャラクターを探せ!

2011年（平成23年）10月15日から11月20日の約1ヶ月間「富士のオリジナルキャラクターを探せ!」がJR富士駅周辺の商店街を舞台として開催されました。これは、商店街の地図を持って街中に貼られたキャラクターを探しそのキャラクターを探した数によって最終日にクジが引けるというウォークラリーイベントです。

準備段階から富士第一小学校の皆さんが塗り絵をしてくれたり、お店に伺ってぬりえを貼らせていただいたりと楽しみながら準備に関わってくれました。また、富士第二小学校も全校生徒にチラシを配布していただき、商店街や地域の学校と協力してイベントを行うことができました。





最終日の20日には大抽選会を行い、開催期間中にキャラクター探しをした子ども達が会場に集まり、クジ引きをしました。総勢100名近い子ども達が来場し、文房具やお菓子などの参加記念品を受け取り大盛況のうちに幕を閉じました。

商店街の商店主と子ども達が顔見知りになり、商店街の楽しさや暖かさを感じてもらえたことと共に、子ども達が商店街を歩くことで商店主が子ども達を見守るようになり、防犯に寄与できました。高校生や小学生が商店街に関わりイベントが完了できたことはとてもうれしい事でもあります。子ども達の笑い声が響く街はやはりよいものですね。

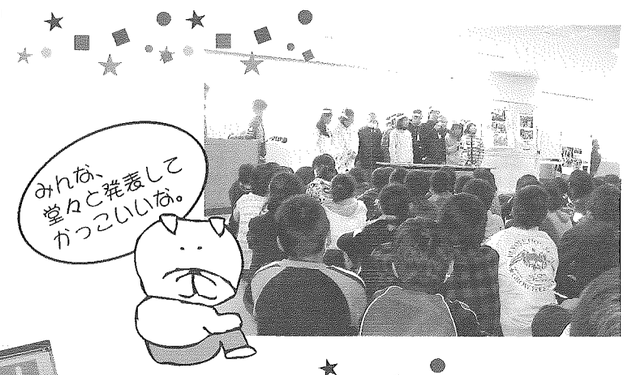
オートレース Auto Race
この事業は、財団法人JKAのオートレース公益資金による補助金「平成23年度地域ふれあい交流活動補助事業」として開催し、NPO法人東海道・吉原宿と吉商本舗が協力して行われました。

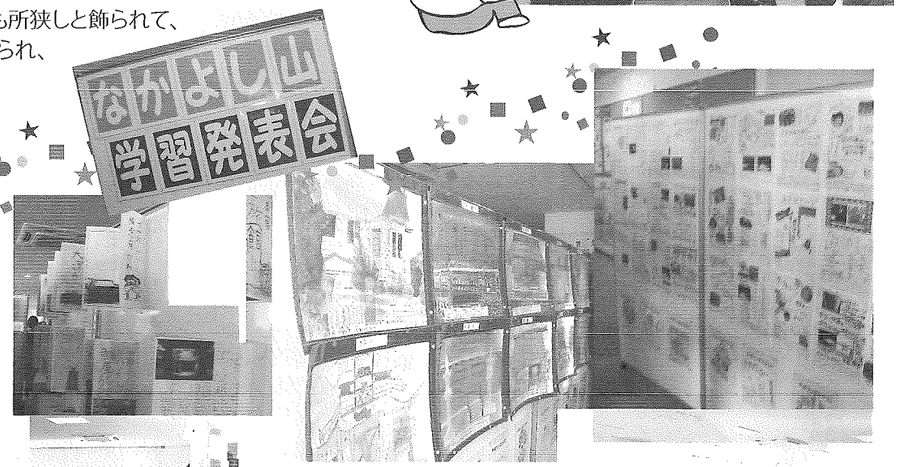
「なかよし山学習発表会」開催!

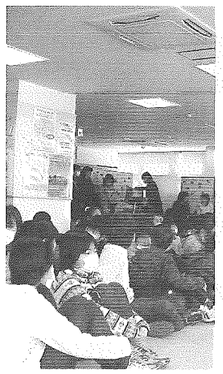
●富士市立吉原小学校６年生

ようこそ！コミュエフへ

２月２日、吉原小学校６年生による、「なかよし山学習発表会」がコミュニティｆを会場に行われました。この行事は総合的な学習の時間の一環として毎年行われ、吉原の地域に関する様々なテーマについてグループごとに調べまとめたものを、お世話になった地域の方や保護者の方に見てもらう発表会です。宿場町の歴史調べや、商店街をより魅力的にするための工夫・問題点の改善、寸劇を交えた発表など、子どもたちの視点で考え、分かりやすくまとめた素敵な発表となりました。発表の後は質疑応答も設けられ、感想や質問、ユニークな提案などが活発に交わされました。館内の掲示コーナーには、調べたレポートや建物の絵なども所狭しと飾られて、保護者の方も大勢見学に来られ、大盛況となりました。







そこが知りたい！ vol. 17
column コラム

「津波避難ビル」とは？

◆「津波避難ビル」に関する初のガイドラインは平成17年６月にできましたが、東日本大震災で津波による甚大な被害が発生したことを受け「津波対策の推進に関する法律」（平成23年６月24日公布/施行）が制定されました。この津波避難ビルの条件は津波予想浸水区域の中にあるビルのうち、以下の基準を満たすものを選定しています。

・鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の３階建て以上の耐震性のある建築（予想浸水高が低ければ２階建でも可）
・日頃から鍵がかかっていない、常に警備員などがいる、屋上に通じる外階段があるなど、緊急時に利用できること

◆富士市は東海地震の被害想定で田子の浦湾内に侵入する津波の高さ3.8mと推定されています。過去の高潮被害の後に高さ17mの防潮堤が設置されておりますが、昨年の未曽有の大震災に、沿岸地域の住民が不安を感じていると地震・津波対策専門調査委員会に報告されています。

◆現在富士市では海抜の低い地域にお住まいの人々が万が一に備えて避難する津波避難ビルの指定に31のビル所有者の方々がご協力されているようです。また、海抜表示看板500ケ所の設置を進めているとのことです。

◆災害時に身を守るためにはお住まい周辺の地理や危険を知り、備えることは非常に重要なことです。富士市の防災のホームページで避難ビルの一覧をご覧ください。

い・ろ・ん・な・な・か・ま

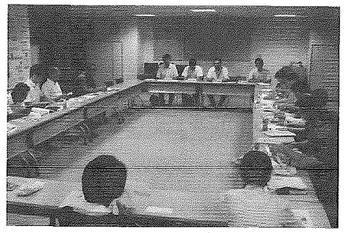
地域で活躍する市民団体を紹介します

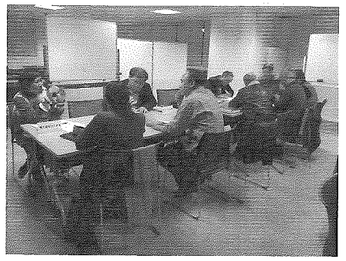
現在富士市内で登録されているＮＰＯ団体は45あまり。それぞれが個々で活動をする傍ら、各団体をとりまとめ、活性化に向けての取り組みなどを協議しているのが「ＮＰＯ協議会」です。今回は協議会 会長の荻野幸太郎さんにお話を伺いました。

富士市NPO協議会

会長　荻野幸太郎さん

■プロフィール■
1980年富士市生まれ。富士市ＮＰＯ協議会 会長。ＮＰＯ法人 プラットフォーム静岡 代表理事。富士市協働推進懇話会 委員。ＮＰＯ法人リフージョ 監事。





Q.ＮＰＯ協議会はどのような経緯で設立されたのですか？

ＮＰＯ協議会の前身は、市役所が主催するＮＰＯ法人連絡会でした。しかしＮＰＯの果たすべき社会的責任についての認識が高まってきたことや、市内のＮＰＯ法人の数が増えてきたことなどから、ＮＰＯ同士の連携をよりいっそう深め、ＮＰＯに関する社会的課題や他のセクターとの協働について一緒に考えていく、自治的な組織の存在が不可欠になってきたんですね。そこで連絡会を発展的に解消して、ＮＰＯ法人による自主的な協議体としての「富士市ＮＰＯ協議会」を設立することになりました。

Q.具体的にどのような活動をされていますか？

年に４回の会合を開き、その場でＮＰＯに関する様々なテーマについて話し合いを行っています。また、会議と同時開催で勉強会も開催しています。昨年度はグラウンドワーク三島の渡辺豊博事務局長による『内閣府雇用創造事業』についての説明会や、静岡大学の日詰一幸教授を招いての『新しい公共政策』についての勉強会、それに木村昌宏税理士による税務・会計実務のアウトソーシングについての講座を開催しました。今年度もふじのくにＮＰＯ活動センター千野和子次長による、静岡県ＮＰＯ活動基金の説明会などを開催しています。ちなみに今期最後の4回目の協議会は3月12日に富士市民活動センターにて、『改正ＮＰＯ法についての講演会』を予定しています。

Q.課題や問題点などはありますか？

個々のＮＰＯは、それぞれの目標を掲げており、各々に事情が違います。ＮＰＯ法人による協議会である以上、ＮＰＯセクターの共通した利害についてしっかりと認識を共有し、どう行動していくかを話し合える場となることが理想ですが、現状はまだ道半ばといったところでしょうか。そしてまだ協議会に加盟していないＮＰＯ団体の参加を強化していきたいと思っています。

Q.今後どのような会にしていきたいと考えていますか？

相互理解をさらに深め、市内の多様なＮＰＯの声をしっかりと集約できる存在になっていけたら良いのではないかと思っています。

――今後の活躍を期待しています。どうもありがとうございました。

市民活動団体からの催事・お知らせ

掲示板

イベント

富士・富士宮で合計33プログラム開催！ 人が輝き、魅力あふれる街へ フジパク 富士山博覧会 シーズン2

■日　時：平成24年2月24日（金）～3月25日（日）

■場　所：富士市民活動センター コミュニティｆ他
（富士市吉原2-10-20 ラクロス吉原2Ｆ）

■内　容：富士山周辺の「人」を輝かせるイベント、それが「フジパク～富士山博覧会」です。地域ごとのキラリと光る魅力を知ってもらえる体験型プログラムを一定期間同時多発的に開催いたします。食、自然、商店街といったそれぞれ違う角度からＮＰＯの活動について論じます。

■申込み：参加には予約が必要です。参加したいプログラムをお電話またはＷＥＢよりお申込み下さい。

■問合せ：富士山博覧会実行委員会
TEL 0545-34-4425
（受付時間　10:00～17:00）
WEB http://fujipaku.info/
*定員になり次第、予約を締切ます。

イベント

富士市立高校吹奏楽部出演 東日本大震災チャリティーコンサート

■日　時：平成24年3月24日（土）
開場12:30　開演13:00～終演14:00

■場　所：フィランセ西館4階　大ホール
（富士市本市場432-1）

■内　容：童謡・AKB・マルモリまで、子供が楽しめる曲たくさん演奏します。当日、子供用品の不用品交換会も同時開催。

■定　員：200名

■申込み：・整理券を2/20（月）10:00～11:30 フィランセ東館4階 育児研修室（カスタネット奥）にて配布します。
・E－mailの場合①お名前②参加人数（大人○名、子供○名）③電話番号を明記してinfo@fujimamanet.orgまでお申込ください。

■問合せ：富士市子育てサークルネットワーク ふじママネット
TEL・FAX 0545-62-8591

NPO支援助成金情報

＊時間の経過に伴い、情報が更新されている場合があります。詳細は、センターＨＰまたはスタッフまでお尋ね下さい。

助成制度名	カテゴリ	実施団体	応募締切
2012年度・第8回「未成年者飲酒予防基金」	保健・医療・福祉、社会教育	アサヒビール株式会社	2/23
第13回　社会貢献基金助成	社会貢献	社団法人　全日本冠婚葬祭互助協会	2/29
URCAまちづくり企画支援事業	社会教育、まちづくり、地域	社団法人　再開発コーディネーター協会	2/29
2012年度　社会貢献活動助成	女性、環境、社会貢献、地域活性、防災、教育、福祉	西友/ウォルマート・ジャパン	3/15
2012年度（第10回）ドコモ市民活動団体への助成募集	子ども	ＮＰＯ法人　モバイル・コミュニケーション・ファンド（ドコモMCF）	3/31
平成24年度　砂防ボランティア基金	ボランティア	(財)砂防フロンティア整備推進機構	3/31
平成24年度　『街なか再生　助成金』	社会教育、まちづくり、地域	財団法人　区画整理促進機構 街なか再生全国支援センター	3/31
「LUSHチャリティバンク」助成	東日本大震災	ラッシュジャパン	毎月月末締切
アウトドア自然環境保護基金プログラム	環境	コンサベーション・アライアンス・ジャパン	通年
ふじのくにＮＰＯ活動基金	社会貢献	ＦＮＣふじのくにＮＰＯ活動センター	通年